

進行期パーキンソン病に対する

# デバイス補助療法

～LCIG(L-ドパ持続経腸療法)を中心に～

医師に直接質問ができるチャンスです！

講師  
脳神経内科

橋本 祐二先生

開催日時

3月16日（水）

12:15～12:45



Zoom  
ウェビナー  
講座

お問い合わせ先・お申込み

お申込みは、右記QRコードまたは[センターHP](#)からお願いします。

埼玉県総合リハビリテーションセンター 職員・企画担当

電話：048-781-2222

メール：n8122221a@pref.saitama.lg.jp



お申込へ



## 目次

1. パーキンソン病およびその治療について
2. デバイス補助療法（DAT）とは
3. LCIG(レボドパ/カルビドパ水和物配合経腸用液)療法について
4. LCIG療法導入に関する当センターの取り組み



イラスト出典  
「パーキンソンスマイル.net」

## 主な内容

パーキンソン病は人口10万人あたり150人程度で、50歳以上では100人に1人の有病率と言われ、高齢化に伴い増加傾向となっています。平均的には発症後20～30年の経過をたどるとされ、医療・介護上大きな問題になってきています。パーキンソン病治療は、主に薬物療法、DBSなどの外科治療、リハビリテーションが三位一体となっています。

進行期になると通常の経口内服で限界が生じてしまいます。LCIGは薬物治療に位置付けられ、持続的に空腸にレボドパ・カルビドパを投与するものです。このセミナーでは、LCIG療法におけるメリット、デメリット、当センターにおける具体的なLCIG療法導入への取り組みについてお話します。

## 主な対象となる方

パーキンソン病の患者様・ご家族、パーキンソン病にかかわる医療関係者・福祉施設職員・スタッフなど

## 御注意

- ・ 申込の際は、メールアドレスの入力間違いに御注意ください。  
申込が完了するとno-reply@zoom.usからメールが届きます。受信拒否設定等されている方は、こちらのメールアドレスからの受信を許可してください。
- ・ 申込個人情報の取扱い：お申込みの際に取得した個人情報は、受講管理にのみ使用し、他の目的には使用しません。
- ・ ウェビナー参加にかかる通信料等は、視聴される方の負担となります。
- ・ 本研修の録画・録音、及び資料の2次利用、詳細内容のインターネット上への投稿等はお断りいたします。これらの行為が発覚次第、著作権侵害として対処させていただく場合がございます。

当日まで  
お申込み  
可能です！

